

平成30年第2回江別市総合教育会議

1 日時 平成30年11月5日(月)午前10時00分～午前11時12分

2 場所 市長公室

3 出席者

(構成員) 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 月田 健二
委員 支部 英孝
委員 橋本 幸子
委員 林 大輔
委員 須田 壽美江

(学校教育支援室)

教育部学校教育支援室長 谷口 圭吾
教育部学校教育支援室学校教育課長 廣田 修
教育部学校教育支援室教育支援課長 松井 正行

(事務局)

教育部長 萬 直樹
教育部次長 伊藤 忠信
教育部総務課長 近藤 澄人
教育部総務課総務係長 嶋中 健一
教育部総務課総務係 佐野 まり子

4 議題

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) いじめ防止対策審議会等の設置について
- (3) 医療的ケア児の受入れに向けた対応について
- (4) 平成31年度教育施策及び予算に関する意見交換について

会 議 録

三好市長	<p>ただいまから、平成30年第2回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の議題は、全国学力・学習状況調査の結果について、いじめ防止対策審議会の設置について、医療的ケア児の受入れに向けた対応について、そして平成31年度教育施策及び予算に関する意見交換についての4件でございます。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、さっそく議題に入りたいと思います。</p> <p>初めに、(1)全国学力・学習状況調査の結果についてを議題といたします。</p> <p>資料が配付されておりますので、事務局から報告願います。</p>
谷口学校教育支援室長	<p>私から、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果についてご説明いたします。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>まず、教科に関する結果であります。小学校・中学校別に各教科の平均正答率を表にして記載しております。表内のカッコの数値は前年度のものであり、理科は3年ごとの実施でありますので棒線としております。</p> <p>平成30年度の調査結果の傾向として、小学校では国語Aで全国を上回っているほか、算数Aで全道を上回っており、中学校では全教科で全国・全道を上回っております。各科目の内訳は、別冊の資料2ページから11ページまでに記載しておりますのでご参照願います。</p> <p>次に、質問紙調査に関する結果ですが、別冊資料12ページから30ページに、児童・生徒質問紙と学校質問紙の内訳を記載しております。</p> <p>なお、12ページから15ページにおいて、各項目の分析及び今後の対応について、各項目の最後の枠に記載しております。</p> <p>この中で特徴的な結果として、児童・生徒質問紙では、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームやインターネットをしていると答えた割合、家で勉強や読書をしていると答えた割合が、全国平均を上回っております。</p> <p>また、学校質問紙では、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うと答えた割合、大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）のICTを1クラス当たり週1回以上授業で活用した割合などは、全国平均を大きく上回っております。</p> <p>最後に、別冊の31ページをご覧ください。</p> <p>学校改善支援プランですが、全国学力・学習状況調査から明らかになった課題に対する、学校の取り組みと教育委員会の支援の内容を記載しております。</p> <p>教育委員会では、今までも確かな学力の定着を図るため、退職教員等を全小中学校に派遣する学習サポート事業や指導力向上を目的とした教職員セミナーを開催するほか、ICT環境の整備や活用促進を進めてきた成果が表れていると考えますことから、新しい学習指導要領への対応を含め、今後においても継続的に取り組んでまいります。</p> <p>これらの内容につきましては、校長会を通じて各学校に情報提供を行い、教育委員会と学校が連携・協力して改善を図ってまいります。</p> <p>なお、調査結果は昨年と同様に、市のホームページに公表を予定しております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆さんからご意見等はございませんか。</p>
支部教育委員	<p>当市における平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果について、ただいま説明がありましたが、一部、説明の内容と重複するかとと思いますが、私の思うところを述べさせていただきます。</p> <p>平成30年4月に実施されました、全国学力・学習状況調査については、市内の小学校17校の6年生987名、中学校8校の3年生986名、合計1,973名に対して調査が実施されたものです。今回は、通常実施されている国語と算数・数学に加えて、3年ぶりに理科も加えられて実施された結果となっております。</p> <p>結果につきましては、配付された資料のとおりでありますけれども、1ページⅡの結果の概要に示されているとおり、中学校の平均回答率が全道、全国との比較におきましても、</p>

全ての教科で上回っており、大変喜ばしいことと思っています。児童・生徒の努力とともに、現場の先生方の努力やご家庭の皆さま方に称賛の拍手を贈りたいと思います。

また、国語Aや算数Aでは、小中学校とも正答数の少ない児童の割合が非常に減少している傾向にあります。これは、現場の先生方の努力がうかがえるとともに、ICTの導入による一定の成果が表れているのではないかと考えております。

特に7ページの中学校国語Aのグラフ、9ページの中学校数学A、11ページの中学校理科の正答数の分布グラフを見ると、正答数の少ない生徒の割合、この表で言いますと正答数ゼロから7問、8問、9問ぐらいまでの生徒数が非常に少ないということがこの2、3年同様の傾向で続いており、非常に改善が行われているのではないかと考えています。これも、やはりICT活用の効果があるものと考えているところです。

次に、質問紙調査については、12ページの中段(3)放課後に何をして過ごしていることが多いのかという質問の中では、小中学校ともに①家でテレビやゲーム、インターネットをしているというものが全国平均を上回っています。また、逆に②家で勉強や読書をしている割合も全国平均を上回っており、江別市の子供たちは結構忙しいのではないかと感じながらも、家庭内のルールづくりの必要があるのではないかと感じているところです。

次の(4)学校の授業以外の勉強でも、①にあるように平日に1時間以上勉強すると答えた割合は、小中学校ともに全国平均を下回っております。②の家で自分で計画を立てて勉強している、またはどちらかといえばしている、あるいは、③の週末に家で勉強や読書をしているかについては、学校での勉強と同様に家庭学習は重要であり、学習内容を確実に身に付けるためにも生活リズムや生活習慣を確立していく必要があると思います。

ここで私が疑問に思うのは、平日で1時間以上勉強するという質問が、大都市部では、2時間以上やっている、3時間以上やっているという質問があるようです。全国の質問事項ですので、1時間以上という質問でも構わないとは思いますが、私が小学校か中学校に通っていたころにも、こういう質問をされたことがあって、点数の良い子供は、何時間も勉強していると手を挙げて答えていたのを思い出しています。

この調査では、1時間以上勉強しているかどうかという質問があるために、子供たちは1時間勉強すれば良いのではないかと感じてしまうのではないかと懸念されます。一度に改善することはできないとは言え、そのような疑問を感じております。

右側の13ページには、(7)思いやりの部分で、②のいじめはどんな理由があっても行けないことだと思うという質問は、小中学校ともに全国平均よりポイントが高いとは言え、いじめ根絶に向けた取り組みを続けるとともに、思いやりなどの道徳教育を継続する重要性を感じております。

また、これらのことについては、人権擁護委員の開催している人権教室なども積極的に進めていくべきと考えております。

次に14ページの学校質問紙についてですが、先生方へのいろいろな質問がなされておりますが、(2)ボランティア等による学習サポートでは、中学校3年生が100%受けているということで、非常に特筆すべきことと思っています。市内の全小中学校に退職された教員経験者の方々が配置され、100%の学習サポートを受けているということで、学力調査の結果向上の隠れた要因になっているのではないかと考えています。落ちこぼれ防止や学力向上との深い理解力の向上のためにも、これからも予算の確保をしていく必要があるのではないかと考えております。

また、15ページにはICTを活用した授業ということで、小学校、中学校ともに100%ということですが、私も学校開放日などに授業を参観させていただいておりますが、年々活用レベルが上がってきているように思います。先生方も非常に機器を使いこなしていると感じております。児童生徒が授業に集中していることがよくわかりますし、先生とのやり取りにおけるレスポンスの良さも年々向上していると感じております。

以上、私から平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果についての意見を述べさせていただきました。

三好市長

ありがとうございました。
そのほかにございませんでしょうか。

<p>須田教育委員</p>	<p>今、支部委員から大変詳細な分析についてお話がありました。私からは全体的なこととして述べさせていただきます。</p> <p>中学校は、今回の調査では全国平均を上回っていることから、先生方の努力が反映されているように感じられ、大変良いことと思っています。</p> <p>しかし、小学校が少しだけ全国平均を下回っているようなので、小学校のうちに、家でのようなことをするのかという生活習慣とか確かな基礎学力、しっかりとした学習の仕方などを学校でも教えてあげるといふ点で、先生方も努力してほしいと思います。そのためには、家庭における教育力が大切であると思いますので、毎日の生活リズムの確立などを家庭でもしっかりと身に付けてもらうためにも、家庭への啓発というものが必要になると思います。</p> <p>一つ気になっているのは、資料12ページの先生が自分の良いところを認めてくれている、どちらかというところでは、学校で先生が自分の良いところを見てくれているということが、子供たちが先生を信頼するために一番大事なことだと思います。100%の子供たちが自分のことを認めてくれていると思えるような先生になってほしいと考えています。</p> <p>また、江別市の学校は、授業態度も良く落ち着いているという傾向ですので、これを続けていくことができると考えています。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私から質問させていただきたいのですが、資料1を見ると、小学校は前回と比べると全国との格差は広がったということが言えますよね。しかし、全道平均とは少し差が縮まったのでしょうか。</p> <p>これはどのように分析すると良いのでしょうか。</p>
<p>月田教育長</p>	<p>今の市長からのご質問も含めて、私から若干お話をさせていただきます。</p> <p>9月29日に中学校の学校祭や文化祭が全中学校で開催されました。その中で、どの市でもやっていることかと思いますが、学年ごとの学級対抗合唱コンクールが実施されています。中学校の校長先生に聞くと、自校の全校合唱が一番素晴らしいとされていて、校長同士の話し合いになるとお互いに譲らず、うちが一番だと言っているようです。もちろん、各学級の合唱も素晴らしいとされているようで、ほとんどの校長が今までの勤務校の中で一番いい学校だと思っているようです。それは、子供たちの挨拶にも言えることで、こちらから自校が一番だと思っているようです。</p> <p>中学校は、挨拶や合唱を見るとその学校の生徒の状態を推し量ることができるのですが、教職員同士でも、野中プライドとか東中プライドなど、自校の素晴らしさを継承しようと考えているようです。</p> <p>また、10月10日に石狩教育局の義務教育指導監が私のところを訪れた際には、江別市の中学校の授業の様子、生徒の態度や集中力は大変素晴らしいと話してくれました。中学校の教師集団が頑張っているという意味で有り難いことですが、それだけでできることではありません。小学校教育の在り様に掛かっているのかなと思っています。</p> <p>小学校では、丁寧な根気強い教育を求めているということですが、先ほど学校教育支援室長から説明がありましたが、資料31ページの学校改善支援プランにもありますように、学校に対する江別市教育委員会の支援ということで、特に教職員の指導力向上に向けた支援ですとか、人的、物的支援が効いているのではないかと考えています。</p> <p>学習サポート事業等では、非常に先生方の評判が素晴らしく、また、外国語指導におけるALTもたくさん雇っていただいていることで高い評価を得ているのではないかと考えています。これらは、中学校を卒業して5年後の成人式においても現れています。江別市の成人式は、いつも大変素晴らしいものとなっています。</p> <p>先ほどの小学校はどうかという市長からのご質問ですが、特に丁寧な指導を行う必要がある子供には、丁寧な指導を行うように現場に伝えており、年度により点数の浮き沈みはあるのですが、小学校では、学力よりも素直さのある子供たちに育ててほしいと話しています。そうすると、中学校では必ず引き継がれます。先ほど市長が指摘されたことは、こういう事情もあることから、その結果として現れているのかなと思っています。</p> <p>いつまでもこの状態が続くわけではなく、来年度は来年度で少し改善されることもある</p>

<p>三好市長</p>	<p>でしょうから、小学校の点数はさほど気にせず、中学校卒業するときの様子を小中学校の連携の中で気にしていこうと思っています。</p> <p>小学校から私立中学校に行く子供も増えていますが、江別市では、中学校の上位の比率が極端に多くはならないですし、中学校では塾に通う子供も他都市よりも少ない傾向にある中で、この結果が出たということは、下位の子供たちも含めて、中学校は伸びているものと考えられます。こうしたことから、素直な子供たちを育てていくという江別市のやり方が功を奏しているのではないかと思います。</p> <p>ただいま教育長からお話があったことも含め、学力に関連して委員の皆様から何かございませんでしょうか。</p> <p>今の教育長からのお話は、大変よく分かりました。小学生は素直さを、中学生はそれを伸ばして学力につなげるとのことかと思えます。今後もよろしくお願いいたします。</p> <p>以上で、本件を終結いたします。</p> <p>次に、(2) いじめ防止対策審議会の設置についてを議題といたします。</p> <p>先の第3回江別市議会定例会におきまして、7月のこの会議で意見交換をさせていただいた江別市いじめ防止対策審議会と江別市いじめ問題再調査委員会の設置に関する条例が可決され、10月1日から施行されたところであります。</p> <p>机上に資料が配られているようですので、前回の会議での議論を踏まえて、市議会での論議などについて事務局から経過説明をお願いいたします。</p>
<p>萬教育部長</p>	<p>資料はございませんが、私から7月の当会議の議題にもなりました、いじめに係る重大事態発生時の対応組織に関する市議会での議論を中心にご説明いたします。</p> <p>先の江別市議会第3回定例会において、いじめに係る重大事態発生時の対応組織として、教育委員会に常設する江別市いじめ防止対策審議会と市長側の再調査組織であります江別市いじめ問題再調査委員会の設置に関する2件の条例案を市議会に提出し、9月19日の市議会本会議において賛成多数で可決されました。</p> <p>条例案に関する議会における議論の経過ではありますが、このたびの条例制定に当たりパブリックコメントを実施しない理由や、条例の施行をなぜ10月1日からとするのかなどについて議論が交わされました。</p> <p>まず、パブリックコメントについては、市民参加条例では、市の基本的な事項を定める計画の策定や基本的な方針を定める条例の制定等を市民参加の対象事項としており、これに従って、教育委員会では、いじめ防止基本方針の策定時と改定時にパブリックコメントを実施していることや、法の趣旨に基づき、国のいじめの重大事態の調査に関するガイドラインに沿った組織を立ち上げるものであることから、改めてパブリックコメントは実施しないこととしたとの立場であり、また、条例を10月1日から施行しようとする理由は、教育委員会としては、今年度中のできるだけ早い時期に常設の組織を立ち上げられるよう準備を進めてきたため、10月1日に施行したいと考えているとの立場で議会に対してご説明をしたところです。</p> <p>こうした議論を経て、議員による討論の中では、基本方針の策定時や改定時にパブリックコメントを実施したことで、既に市民意見を得たとされているが、江別市の自治基本条例や市民参加条例の趣旨からも納得できるものではない。条例制定による審議会及び委員会の設置については理解するものの、条例制定に当たってパブリックコメントが不可欠であったと考えるものであり、制定に至る手法に同意できないことから、条例案に反対するとの立場を取られた方もいらっしゃいました。</p> <p>一方で、条例案に賛成する立場の方からは、両条例の趣旨は、いじめ防止基本方針に基づき二つの調査組織を設置するものであり、制定に当たりパブリックコメントを実施しないことについては理解する。重大事態はいつ発生するか分からず、調査組織の設置は、早急に行う必要があると考えることから賛成すると述べられました。</p> <p>さらに、本会議では、市議会の委員会審議における少数意見が報告されました。その意見の概要を申し上げますと、パブリックコメントに関しては、調査組織の構成員がどのような人で何人ぐらいがいいのかなどについて市民意見を聴取すべきであり、また、市民参加条例は、行政の事務義務規定であって対象事項ではないため市民参加を求めなくてよいとする対応は極めて消極的判断であると言わざるを得ない。</p>

	<p>また、条例制定に当たり、本年7月に江別市青少年健全育成協議会及び江別市総合教育会議において条例について説明が行われたが、その内容は法に基づく調査組織のイメージ的なものであり、組織の名称や設置時期等、具体的な内容の説明はなく、このたびの条例提案は、極めて形式的な手続を経たものであると言わざるを得ない。いじめ防止等の対策は、いじめの未然防止から重大事態まで、主体となる市民の理解と関心を持ってもらうことが重要で、市民参加の機会を提供し推進していくため、パブリックコメントを実施することを求める。さらに、施行期日が10月1日でなければ支障がある根拠と理由について明確な説明がなく、施行期日と議会日程等によってスケジュールありきとなり、議会と議員の責務を果たす障害にならないよう配慮を求める。</p> <p>以上の観点から、二つの条例案は、これらを考慮に入れた手続を取っていないことから容認しがたく反対するものであるとの内容でした。</p> <p>こうした議論を経て、冒頭に申し上げたとおり、市議会では賛成多数で二つの条例案は可決されたところではありますが、市議会という場で、このように様々な立場からご意見をいただきました。今後におきまして、様々なご意見に耳を傾け、教育行政の運営に当たってまいりたいと考えております。</p> <p>私からは、以上であります。</p>
<p>松井教育支援課長</p>	<p>私からは、いじめ防止対策審議会条例制定後の経過について、ご説明いたします。</p> <p>今ほど部長から説明しましたとおり、いじめによる重大事態対応の組織に係る条例案が9月議会で可決され、10月1日から施行されております。</p> <p>今後の予定であります。江別市いじめ防止対策審議会条例に基づき、2年の任期で、学識経験者、弁護士、精神科医、心理福祉の専門家、人権擁護委員の計5名への委嘱を予定しており、現在、委員の選考事務を進めているところであります。委員の委嘱につきましては、11月の定例教育委員会でご審議いただく予定であり、ご承認をいただいた後、第1回の審議会を12月に開催したいと考えております。</p> <p>資料2をご覧願います。</p> <p>いじめ防止対策審議会の重要な機能である、いじめの重大事態発生時の対応についてであります。改めてその流れをご説明いたします。</p> <p>まず、学校から教育委員会へ重大事態発生 の報告があり、教育委員会は市長へ重大事態発生 の報告をいたします。</p> <p>次に、教育委員会が重大事態の調査主体を判断し、教育委員会が調査主体の場合、教育委員会から今回設置しましたいじめ防止対策審議会へ事実関係を明確にするための調査指示をいたします。いじめ防止対策審議会の調査結果がまとまりましたら、教育委員会へ報告し、教育委員会は市長へ報告いたします。市長は、調査結果を踏まえ、再調査の必要性を判断し、再調査が必要と判断した場合、市長の附属機関であるいじめ問題再調査委員会 で再調査を行う流れとなっております。</p> <p>以上です。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ただいま、9月議会での議論の経過や、審議会等設置後の現在の状況について説明を受けましたが、皆様からご意見等はありませんか。</p>
<p>林教育委員</p>	<p>条例制定に当たって大変ご苦労されたということですが、いずれにしても事前にこのような組織をつくっておくことは必要なことだと思いますので、このたび可決されて良かったという感想を持っています。</p> <p>今後、5名の方が委嘱されるということですが、できれば、そんなに活躍していただかない方が良いわけですが、こういったものを備えておくことは必要なことだと思いますので、これから進めていただくことを期待しております。</p> <p>重大事態が発生した際に、いじめ防止対策審議会 で審議をされて、市長に報告され、そこで問題があれば再調査委員会 で再調査を行うわけですが、市民感覚としては、これらの機関がしっかりとした第三者機関であるところがやはり重要視されると思います。その辺りを考慮すると、しっかりとした第三者機関であるということと、別な組織できちんと議論するということが、差し戻しみたいな形にならないように、独自の機関として位置付けることが望ましいだろうと今回の条例に関しては感じています。</p>

	<p>あと、条例の件とは離れますが、先日の新聞で、いじめの発生と言うか認知件数が増加しているという報道がなされたのですが、たまたま文部科学省主催の研修会に出席した際にも同じような話が出ておりました、今までの認知と最近の認知のやり方が変わっているということで、文科省も初期段階のいじめも含めて積極的に認知して、その解決に向けた取り組みのスタートラインに立っているのだから、認知の件数が増えていても極めて肯定的に評価するというお話をされておりました。私もそのとおりだと思いますし、積極的に認知を進めることで、今まで見過ごしていたような内容が表面に出てきて、結果的に重大事態になる前に、未然防止ができるということになると思います。</p> <p>当市でも積極的に認知をすることで進めていると思いますが、件数だけを見るとあまりいいイメージがないので、市長としても辛い立場になるのかもしれませんが。報道する側にも認知の仕方を変えたということも理解していただいた上で、お互いの共通認識として、発生するものは認知して、解決に向けて進めましょうという姿勢になるのがいいのだろうと思います。</p> <p>全国で一番認知件数が多いのは京都府らしいですが、平成25年度ぐらいからどんどん認知をするようになってきて、その当時は一番少ない都道府県と83倍の差があったそうです。それが、平成28年度には19倍にまで縮まったということで、京都府の認知件数はほとんど変わっていないので、ボトムが上がってきているということになります。全国的に認知を進めていく動きがあるようですので、この流れをくみながら解決に向けた取り組みをするのがいいのではないかと考えています。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。 そのほかにご意見等はございますか。 この件について、月田教育長いかがですか。</p>
月田教育長	<p>携帯電話ですとか、パソコンのない時代に私も教師をしておりましたが、学校内におけるいじめというのは、教師はすぐに分かったものです。</p> <p>例えば、子供が忘れ物をして隣の人に借りようとするときの子供の態度が何かおかしいと思ったら、大抵はいじめられているのではないかと、あるいは、いじめをしているのではないかと気付いたのですが、現代のいじめは会員制交流サイト、いわゆるSNSのいじめが非常に深刻になっていて、学校では子供たちの態度に余り出ないことから、教師も気付かないということが多くなっています。やはり、このようないじめ防止対策審議会や再調査委員会などを設置しておくのは大事なことだと思っています。</p>
三好市長	<p>先ほど林委員からもお話がありましたが、世の中が大きく変わってきていて、教育現場の対応が付いて行かなかったのがこの数年の状況でないかと思っています。やっと、現状に合うような形になってきて、それが認知件数に表れているのだろうと思います。</p> <p>今回の議会でもかなり熱心に議論されましたが、やはりいじめに対する危機感が表れているということなのだろうと思います。関心の高まりもありますし、全国的な動きもありますので、林委員の言うとおりに、誰が見ても第三者機関であるという運営意識の下で、審議会を早くスタートしていただきたいと思っています。</p> <p>第3回定例会で議論になりましたので、少なくとも第4回定例会前には、第1回目の会議をいつ開催するかということを確認にできるような準備をお願いしたいと思います。</p> <p>以上で、本件を終結いたします。</p> <p>次に、(3) 医療的ケア児の受入れに向けた対応についてを議題といたします。</p> <p>このたびの10月1日付けの人事異動により、将来の医療的ケア児への対応を見据えて、市立病院から3名の看護師を教育委員会に配属しました。</p> <p>現在は、各小学校などで特別支援教育に従事するなどしながら、医療的ケア児への対応に向けた準備に対応されていると伺っておりますが、現在の状況や、来年度に向けた準備などについて、資料が配られているようですので事務局から説明をお願いいたします。</p>
谷口学校教育支援室長	<p>私から、医療的ケア児の受入れに向けた対応についてご説明します。 資料4をご覧ください。 ただいま、市長からお話がありましたとおり、今まで医療現場にいた看護師が教育現場</p>

	<p>の環境に適応することを目的に、小学校の特別支援学級で研修を行っております。今後は北海道主催の講習への参加や実際に医療的ケアを実施している養護学校を訪問し、見学及び意見交流を行う研修会の実施を予定しております。</p> <p>さて、教育委員会では、医療的ケアの実施に向け、市の取り組みの方向性を示すガイドラインを医療関係者等の専門家の方々からの意見を参考に作成しているところであり、合わせて制度の手続きを規定する実施要綱を作成中であります。ガイドラインの作成後には、広報等によりPRを開始する予定であります。</p> <p>次に、医療的ケアの実施体制についてであります。その全体像を、資料下のイラストによりご説明いたします。</p> <p>まず、教育委員会が事務局となり医療関係者や学校関係者等で構成する江別市医療的ケア運営協議会において、医療的ケアの実施に係る重要事項に係る協議・検討等を行い、本事業を進めてまいります。</p> <p>実際に医療的ケアを行う実施校では、学校長と看護師を中心に校内関係者で校内安全委員会を組織し、ガイドラインを基に緊急時における対応や安全管理を規定する実施要領を作成いたします。</p> <p>医療的ケアを行う看護師は、主治医からの指示の確認や、保護者から体調や家庭におけるケアの実施内容の把握、あるいは学校医からも意見や助言を受けるとともに、それぞれの関係者に学校における実施状況を報告するなど、緊密な連携と情報共有に努め、安全管理の実施を目指そうとするものであります。</p> <p>このように、医療的ケアの実施に当たりましては、教育委員会と学校との連携はもちろんのこと、医療機関や保護者、関係機関等とも連絡を取り合い、安全管理に十分配慮した上で、進めてまいりたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、医療的ケア児の受入れに向けた対応について説明を受けましたが、皆さまからご意見等はありませんか。</p>
橋本教育委員	<p>医療的ケア児の受入れに向けて、10月から正職員の看護師さんが教育委員会に配置され、配置された学校に看護師さんがいらっしゃるのかと思いますが、一般の子供たちにとっても医療的な知識という面で、身近なものとして伝えていただけるような存在になっていただけるのではないかと、こうしたことを勉強する場にもなれば良いと思っています。根本的には、医療的ケア児の対応をしていただくことになるので、あまり他市町村では聞いたことのないような先進的な取り組みの体勢を取ったと期待しております。</p> <p>保護者の中でも、こうした医療的ケア児の対応を熱望されている方もいらっしゃいましたので、これから実際のお話合いが始まるのかと思いますが、保護者からも期待されているものと思います。</p> <p>ただ、個人的に心配している部分がありまして、看護師さんが受け入れていただける対象の範囲と言いますか、キャパシティと言いますか、希望する子供たち全てを受け入れるということは、現状では厳しいのではないかと考えています。医療的ケア児の受入れは、看護師さんが受け入れるというより、学校という現場が受け入れるということですので、設備や学校の中での準備を含めた受入れ態勢が必要かと思っています。今までどおりなのかもしれませんが、一人ひとりの子供に合った対応をする中で、それぞれの学校でどういったことができるのかということ、保護者とも十分に話し合った上で、慎重に一つ一つのケースを考えていただきたいと思います。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私もこの件については関心が高く、今までは未熟児と言われる子供たちは、なかなか育たなかったのですが、20年近く前から、未熟児の子供たちも長く生きていくことができるようになりました。知的な障がいもなく、身体の障がいもなく、医療的ケアだけが必要な状況で生活することができるのですが、なにがしかの介助がなければ学校には行けない状況にあって、ずっと親が対応していたという状況がありました。ここに対応する必要性があるということで、今から5年ほど前の2015年に厚生労働省が調査した結果を受け</p>

<p>橋本教育委員</p>	<p>て、文部科学省から動きが出始めました。2016年の法改正で、医療的ケア児の支援が各市町村の努力義務となりました。</p> <p>東京都内の八王子市ですとか、神奈川県川崎市などは2016年から2017年ごろから始めていますが、様々な課題があるようです。命に関わることでもありますので、軽々に対応しますということにはなりません。今、橋本委員がお話しされたように、一人ひとりのメニューを揃えて対応していかなければなりません。それが果たしてうまくできるのかどうか課題になってくると思います。</p> <p>今回、校内安全委員会やガイドラインをつくるということですが、私も必要なことだろうと思っていますし、同時に、受け入れた実績を積み上げていき、江別市ならではの医療的ケア児の受入れ態勢を確立していかなければならないと思います。全ての学校で受け入れることは難しいと思っていますので、どこか専門性を高めるような学校を選定していただきながら進めていく必要があると考えています。</p> <p>併せて、国もようやく補助制度を整備することで動き始めています。今回の予算の中にも、配置した看護師の人員費の補助金が盛り込まれています。ある意味では、江別市は第一号になるのではないかと思います、そうした動きが出始めています。</p> <p>私は、医療的ケア児を受け入れて教育を提供するという必要だと思っていますが、医療的ケアが必要な子供たちも勉強したいという思いを持っていて、それを見ている周りの子供たちへの教育にもなるのではないかと考えています。つまり、医療的ケアを受ける本人だけではなく、周りにも波及する効果があるような気がしています。そういう意味では、学力だけではなく、人となりの教育にもつながるものと期待をしています。</p> <p>おそらく、課題はたくさんあると思います。想定できない問題も起こると思いますが、江別市には市立病院があって、看護師を確保できるというメリットがありますので、有効に活用しながら江別市ならではの医療的ケアの形を作っていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本件については、この程度でとどめたいと思います。</p> <p>次に、(4)平成31年度教育施策及び予算に関する意見交換についてを議題といたします。</p> <p>10月10日に、平成31年度に向けた予算編成方針説明会を開催し、私から新年度予算編成に当たっての職員への指示事項を申し上げたところであります。</p> <p>来年は選挙の年ですので、いわゆる骨格予算となります。第6次江別市総合計画は10年間の計画ですので、今年は中間年ということで見直しをしておりますけれども、全体的な方針は変わりません。</p> <p>えべつ未来づくりビジョン後期の初年度として、安心して暮らせるまち、活力のあるまち、子育て応援のまち、環境にやさしいまちの4つの柱は、計画の根幹ですので変えることなく進めていかなければなりません。これらを踏まえて協働のまちづくりを進めていくことになると思います。</p> <p>2番目としては、やはり健全な財政運営ということですが、非常に厳しい財政運営が続いておりますので、既存事業の大胆な見直しを行うこと、その上で財源を生み出し、次の施策に向けた予算を考えるよう職員をお願いをしたところです。</p> <p>具体的な内容については、先日の定例教育委員会でご説明したとお聞きしておりますが、本日は、来年度の教育施策及び予算に関する意見交換ということで、総合計画を踏まえた形で、意見交換をしたいと思っています。</p> <p>今、机上にはパブリックコメントや市議会への報告などを踏まえた、現在見直し作業中の計画から、教育に関する部分を抜粋した資料が配られております。私としては、この案にも書かれておりますとおり、これまでの5年間のやり方を、基本的に踏襲する形で進めていきたいと考えておりますが、委員の皆様からのご意見を頂ければと思います。</p> <p>どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。</p> <p>耐震化が終わりましたので、子供たちも安全に学校へ通えるようになりました。また、電子黒板も全道で18%程度しか普及していない中で、江別市は全学級に設置していただいております。大変活用されていますし、子供たちも生き生きとして、きらきらとした目で授業を受けているのを見て、大変うれしく思っています。</p> <p>その中で、以前もお話しさせていただきましたが、予算も大変厳しい状況かと思っております。</p>
---------------	---

	<p>が、ICT環境の充実という面で、新しい学校については無線LANの整備が整っていて、古い学校については整っていない状況になっています。そのため、タブレット型パソコンを導入して、各学校で先生が工夫しながら授業を行っているのですが、ほとんどがパソコン教室でしか使えないということもあります。将来的なことを考えますと、やはり無線LANなど、どこでも校内のネットワークが使えるような環境を整えたいのではないかと考えています。</p> <p>一部の学校でできることが、一部の学校ではできないということが、教育の差にならないといけないのだろうなという点と、あの小学校はいいなと言われなように、皆さん平等にと言うか、同じ教育が受けられるような形が理想的と考えています。</p> <p>何々小学校はいいと言われるのではなく、子育てのまちとして江別市の学校はいいなと言ってもらえるような予算があるといいと思っています。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。 そのほかに、ご意見等はございますか。</p>
月田教育長	<p>江別市においては、学校教育だけではなく、生涯学習教育においても子供たちを大きく育もうと考えているところです。具体的には、文化系、体育系を問わず、子供たちの習いものを応援していかなければならないと思っています。その習いものによって認知能力が開花するというのが多くの文献に書かれておりますので、そこを大事にしていきたいと思っています。例えば、体育系では少年団活動ですとか、文化系ではサークル活動があるかと思いますが、予算編成方針の4ページに書かれている補助金について、いろいろな面で検討していただきたいと思っています。</p> <p>また、青少年の健全育成関係も非常に大事だと思っております。例えば、江別市には江別市子ども会育成連絡協議会、江別市青少年のための市民会議などの団体があり、健全育成の面で非常に感謝をしているところです。</p> <p>保護者の意識改革も私たちの役割の一つで、アウトメディアの講演会は江別市でも毎年開催しておりますが、今年は開催したので来年は開催しないということではなく、毎年開催することで多くの保護者の方々に来ていただいて、スマートフォンの使い方なども検討していただくきっかけをつくることも大切だと思っています。こうした点についても、予算編成の際にはよろしく願いいたします。</p>
三好市長	<p>ただいま教育長からもお話がありましたが、ほかの皆さんはいかがでしょうか。</p>
林教育委員	<p>予算も大変厳しいようで、5%の削減を求められたということですが、江別市の強みを生かすような予算編成をしてほしいと思います。人口も社会増になっている中で、多くの方は、江別市で子育てができるということに魅力を感じて、移ってきているのだらうと思います。安心して子供を育てられる環境ということには、これから力を入れていくべきだと思いますし、江別の強みということと言いますと、資料にも出ている大学との連携強化ですとか、江別にしかできない取り組みというところを、さらに伸ばしていけるような予算づくりをすることが、やはり江別市の魅力につながるのではないかなと思います。いろいろな要求があってもいいとは思いますが、江別市の魅力がますますアップするような予算を配置していただけたらと良いと思います。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。 そのほかは、いかがでしょうか。</p>
須田教育委員	<p>江別市は、子育てがしやすいということで、ぼこあぼこなども、市外から訪れる会員の方がいらっしやると聞いています。実際に赤ちゃん訪問などをしていると、こんなにたくさん絵本がもらえるんだねとか、いろいろなものをもらえるのは江別だけだねとすごく喜ばれています。江別の魅力、子育てがしやすいまち、そういうことをもっともっと広げてほしいですし、協賛してくれる企業なども増えると良いと常々思っています。そういう意味でも大変喜ばれている絵本の配布などを縮小しない方向でお願いしたいと思っています。</p>

支部教育委員	<p>ただいま須田委員から企業からの協賛というお話がありました。市だけが費用を賄うのではなくて、広く企業にも補助をお願いする、それが企業PRにもなるということで、絵本などの配布ができるシステムづくりができると非常に有り難いと思います。こうしたことが子育てをする方に選ばれるまちづくりにつながりますし、同時に地元企業のPRにもなるようなシステムができるといいのではないかと思います。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>実は、平成17年から人口減少になっていることが分かりまして、実際に国勢調査で分析できたのが平成22年でした。自然減はもちろんありましたが、出生は少し伸びていて、どの年代層が社会増減になっているのかを分析すると、このままだと大人の社会減にプラスして、さらなる社会減に変わっていく可能性があると考え、平成23年度からは全ての予算に江別市の特色を生かした予算計上をすることを始めました。分析してみると140人から150人ぐらいが転入超過になっていたのは、年少人口だったのです。</p> <p>そこで、年少人口に着目して、何をしたら喜んでもらえるのかと考えまして、子育て中のお母さんたちからいろいろなお話も聞き、もちろん職員からもお話を聞いて、必要だと言われたものが、先ほどお話のありました、ぽこあぼこのような施設だったのです。お母さんたちは冬場にどこに行っているのかと聞くと、札幌市白石区の川下にある遊び場に行っていて、お母さんどうしのつながりもできて、子育ての情報交換をしているということでした。そこでは、新札幌でこのような行事がある、札幌ではこういうイベントがあるというように、全てが札幌中心の情報がやり取りされていて、江別市の人も札幌のイベントに参加するという流れにありました。ここにメスを入れなければならないということで作ったのが平成25年12月にオープンしたぽこあぼこです。年間9万2,000人から9万3,000人ぐらいの方が訪れる施設ですが、その4割ぐらいが市外からの方ということで、江別市のPRにもなっています。</p> <p>こうしたことで、一つは子育て環境をつくらなければならないだろうと。もう一つは、学年進行に応じて、流れを止めないように過去から英語教育を一生懸命やっているなど、教育に非常に熱心なまちだというのが江別市の看板にもなっていますので、その看板をもっと大きな看板にしようということで、教育に力を入れることを、平成26年度からの総合計画に全面的に掲げています。総合計画の前年にも教育の充実を図ろうということで、モデル的に導入したのが電子黒板です。初めは値段も高かったのですが、5年ぐらい掛けて整備する予定でしたが、学校の先生からもご意見をいただきながら、子供たちや保護者からの強い要望も受け、2年間で全クラスに導入しました。それが子供たちの教育環境を良くしたという評価もいただきまして、全道で全てのクラスに電子黒板が導入されているのは、確か江別市だけと言われていたと思います。そういう意味でも、学校の先生からPRにつながったという状況があります。しかしながら、電子黒板だけでは十分に効果が発揮できないことから、教科書も必要だということになりまして、数学や国語などのデジタル教科書の整備も進めてきたところです。教科書は何年かで変わっていきますので、確か来年が変わる年だったと思いますが、全市の教科書の整備が必要になってきます。</p> <p>教育も子育ても止まるわけにはいきません。特に教育は、一步一步上積みしていかなければならないと思います。先ほど橋本委員からお話がありましたが、全校一斉にシステムアップしていければ一番いいのですが、校内LANは学校の改築と絡めるのが導入しやすいということもあり、改築を優先しているところですが、ほかの学校と差を付けるわけにはいきませんので、校内LANの整備、さらにはタブレット端末での関連でも許す限り整備していかなければならないと考えています。</p> <p>さらに、どのような特色を江別に持たせるかということですが、国際感覚を身に付けるために小学校1年生から英語教育を実施しておりますが、そのグレードも上げていかなければならないと思っています。外国人のALTを確保しておりますが、これからは小学校3年生から英語教育が始まりますので、全道でネイティブな英語による学習に向けて、外国人の先生方の確保に奔走していると思います。そういう意味では、江別市が他市町村の先生方を供給する拠点のような地域になればいいという気持ちもあります。外国人の講師にとって、江別に来ればどういった英語の学習をしなければならぬのかが分かるというようなことになるとうれしいという気持ちもあります。</p> <p>そして、もう一つは大学との連携です。市内にそれぞれ特色を持った四つの大学があり、</p>

それらと連携した教育ができるまちは他にはありません。大学との連携が江別というまちの一つの売りですので、そこに特色を出していく必要があるのだろうと思っています。

こうしたことに必要な予算は、これから頑張って創意工夫したまいたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上ですが、私の意見を踏まえて皆様から何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。(了)

それでは、本件を終了したいと思います。

次に、3のその他についてですが、今回のテーマ以外で何か協議したいことがありましたら伺いますが何かございますか。

よろしいでしょうか。(了)

これで、予定した議事はすべて終了しました。次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がない限り、新年度に開催を考えております。その際は、事務局を通じてご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。

熱心なご議論をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。